

第1回賃金対策委員会を開催！

26春闘へ向け、意思統一を図る！

中央本部は、2025年11月11日(火)、西阪急ビル地下会議室において、第1回賃金対策委員会を開催した。会議には、各地本・総支部の代表者合わせて総勢31名が出席した。

初めに、中央本部を代表して、羽野執行委員長より、①JR西日本の第2四半期決算、②福知山線列車事故のご遺族様、ご被害者様説明会、③第30回賃金実態調査、④一時金の申入れ、⑤JR連合2026春季生活闘争方針策定に向けて、⑥労働時間の規制緩和について、挨拶を行った。

議事では、経過として25春闘、第30回賃金実態調査の振り返りを行い、議題では2026春季生活闘争へ向けた連合の動向やJR連合、JR西労組における春闘方針、賃金昇進制度の見直しに向けて確認し、意思統一を図った。

経過では、25春闘の成果と課題、第30回賃金実態調査の結果を受けて、各地方での取り組み内容や工夫した点等、特に出向組合員への対応方を共有した。

議題では、2026春季生活闘争に向けた、連合の動向やJR連合の基本的な考え方、JR西労組における考え方、具体的な取り組みとして、「春季生活闘争の見える化」「春季生活闘争勝利に向けた総団結行動の展開」「2026春季生活闘争(総合生活改善闘争)要求集約」を提起した。

JR西日本 2025年度 中間決算公開

◆決算のポイント

- ・まちづくりプロジェクトの営業効果に加え、大阪・関西万博による増収も寄与し、5期連続の増収増益(経常利益・純利益)
- ・旅行・地域ソリューション業は、インバウンド需要の取り込みにより増収も、国内旅行事業の減により、増収減益
- ・業績予想
- ・中間期の決算実績を踏まえ、8月5日公表の予想を上

◆株主還元

- ・予定していた約500億円の自己株式の取得を完了、全数を消却(9/30実施)
- ・年間配当は、業績予想の修正と自己株式消却後の株式数を踏まえ、1株あたり86円から90.5円に増配

【2セグメント】
・モビリティ業、流通業は、大阪・関西万博による増収やインバウンド需要増により、増収増益
・不動産業は、まちづくりプロジェクト(大阪・広島)の開発効果もあり、ホテル・SC業が好調に推移し、増収増益

なお、営業利益は、前年大阪プロジェクト開業に伴う経費増により減益だったため、2期ぶりの増益

<連結決算>	2024年度 中間期	2025年度 中間期	対前年		2025年度通期予想		対前年	
			増減	比率	前年(8/5)	今期(11/4)	増減	対前年予想増減
営業収益	8,113	8,718	604	107.4	18,200	18,360	1,280	160
(うち運輸収入)	4,346	4,657	311	107.2	9,250	9,300	373	50
営業利益	1,047	1,229	181	117.3	1,900	1,950	148	50
経常利益	985	1,151	165	116.8	1,740	1,790	133	50
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益	697	867	170	124.4	1,150	1,185	45	35

塚本、尼崎 消防隊員触車死亡事故慰霊行動 および祈りの杜献花行動を実施

中央本部は、2025年11月6日(木)、2002年11月6日に塚本・尼崎で惹き起こした触車死亡事故でお亡くなりになった消防隊員に対し、慰霊行動を行った。

事故が発生してから23年を迎え、あらためて事故でお亡くなりになった消防隊員のご冥福をお祈りする

お亡くなりになった消防隊員のご冥福をお祈りするとともに、お詫び申し上げ安全を誓った。

また、JR福知山線列車事故現場である「祈りの杜」を訪問し、献花行動を行うとともに、二度と悲劇を繰り返さない決意を心に刻んだ。

JR西労組は、引き続き、働く者の死亡事故ゼロ、重大労災ゼロに向けて取り組んでいく。



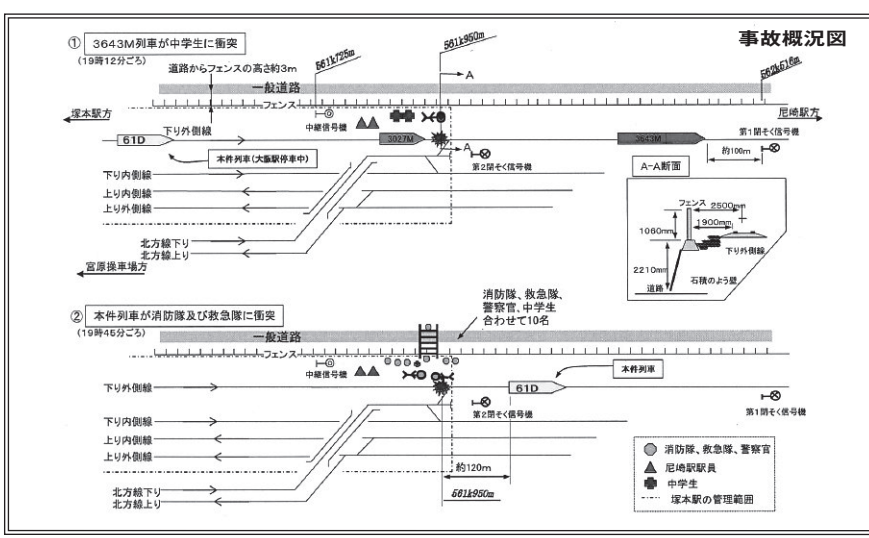
「祈りの杜」を訪問し、献花行動を行うとともに、二度と悲劇を繰り返さない決意を心に刻んだ



「祈りの杜」を訪問し、献花行動を行うとともに、二度と悲劇を繰り返さない決意を心に刻んだ

事故の概況

JR西日本の東海道本線塚本駅～尼崎駅間の線路内で遊んでいた中学生が列車にはねられた事故があった。この現場で中学生を救急隊員が救助していたところ、後続の特急「スーパーはくと11号」に救急隊員がはねられ1名が死亡、1名が重傷となった。



ロマンは実を結ぶ

本社総支部

No.373

本社総支部、賃金実態調査で過去最高の96.1%

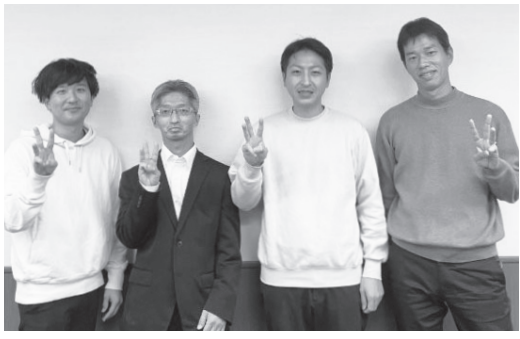
過去最高の96.1%

9月から10月にかけて実施された第30回賃金実態調査。春闘に向けた基礎材料を得るための毎年恒例の調査ですが、出向者の多い本社総支部では、同一分会内でも勤務地や職場環境がさまざま、声かけの難しく、回答率の向上はかなりの難題でした。

それでも、「今年こそ9割を超えよう」という強い決意のもと、業務部を中心に早い段階から回答促進活動

スタートさせました。「回答率は団結力！」を合言葉に、藤田書記長からは毎日、愛の回答率速報、未回答者情報が届き、分会や職場の垣根を越えて仲間同士が声を掛け合う姿が広がりました。同期や先輩後輩、友人同士など、職場の垣根を超え誰もが「自分ごと」として協力し合う雰囲気生まれたのです。

その結果、出向者が特に多い総務系統や、地域まちづくり本部分会でも9割に迫る回答率を達成するなど、大きな効果を上げました。最終的には、全体で96.1% (昨対+7.9p.t) という過去最高の結果に。20分会中5



はりまくん

